

お茶うけ 第75話

ボタンあれこれ

前回のボタンの話を引継ぎ、ボタンにまつわるエピソードをいくつかご紹介します。

英語のボタン(button, フランス語でbouton)には、木の芽・花のつぼみ(bud)の意味があり、語源をたどると古仏語のboton(つぼみ)に行き着きます。ボタンが花のつぼみから連想されたのは、なかなか優雅です。

日本で「ボタン」という言葉が用いられたのは、江戸時代中期といわれています。いまでも使われる「釦」という漢字は、明治3年に太政官布告によってヨーロッパスタイルの海軍の制服が定められた際、ボタンの文字がないので、服の口に金属製品を入れて紐の代用にするという意味から「紐釦」の文字を宛てたことに由来するそうです。考案者は大村益次郎といわれています。この布告により海軍の将校服のボタンは「金地に桜と錨をあしらったものを前面二行各9個、後面二行各3個、計24個つける」ことが定められ、きらびやかなものとなりました。このモチーフは第二次大戦の終戦時まで使用されました。



袖口にカフス(cuffs)をつけるファッションは 17世紀フランスのルイ14世の宮殿から始まりま

す。カフスにボタンをつけたのは、貴族たちが食事のときにナプキン代わりに袖口で口を拭かないようにするためだという説があります。でも、それが次第に派手になり、袖口を高価なカフスボタン(英語ではcuff-button)で留めて その下から贅沢なレースをのぞかせるのがこの時代のモードとなりました。

20世紀になると背広にワイシャツ(white shirts)という現在の形が完成しますが、カフスボタンは男子の主要なアクセサリーの一つとして普及し、今日でもダブルのカフスボタンは礼装用に欠かせないものとなっています。

いまの背広の袖口にもボタンが3,4個ついているのはなぜでしょうか。これは、兵士たちが軍服の袖でハナを拭くのをやめさせるために ナポレオン・ボナパルトが考案したという説が有力です。いや、それはエリザベス1世だった、という説もありますが、ハナを拭かないようにというのは共通しています。そういえば戦前の子どもたちは「ハナ垂れ小僧」の名の通り、服の袖で鼻汁を拭いて袖口をてかてか光らせていたものでした。いまは生活も豊かになり、ハナを垂らしている子どもはほとんど見られなくなりました。

西欧の人びとはボタンに対する愛着が深く、古くなった服を処分するときはボタンを外して保存しておくそうです。伝統的にボタンが貴重品だったこと、故人の着ていた服の思い出として大切に作る気持ちが重なったものでしょう。

女優の中村メイコさんの「祖母とボタン」というエッセイに、ほのぼのとした一節があります。「祖母は遠い昔を思う目をして、母の幼い頃洋服についていたという赤いボタンを私の手にしっかりとにぎらせてくれるのであった。引き出しの中には大中小の数かぎりないボタンがいっぱいに入っていた… 私はふと祖母に、「じゃ、おばあちゃん宝物なのね」ときくと祖母は笑って、「そうですよ、大切な宝物なの。この一つ一つのボタンの中には二度とかえってこない喜びや、悲しみがいっぱいつまっているんだから」そういって静かにもとの引き出しの中にていねいにしまっていた」

文豪の森鷗外も「ボタン」という小さな詩の中で、ボタンを一つ失った悲しみを歌っています。

「はたとせの 身のうきしずみ / よろこびも かなしびも知る / 袖のボタンよ / かたはとなりぬ、」

また、デザイナーの桂由美さんは教室で生徒にスーツを提出させる際、服のデザインの重要な要素としてボタン選びを厳しく指導し、次のように述べています。「一度でああ良いと思う適当なボタンをつけてくる子は約二割、四割はまあ我慢のできる程度、あとの四割は全然ダメ… 一度注意されると次にはびたっとしたのを選んでくるものもあれば、二度、三度、首をかしげさせるようなのを選んでくるものもあります。ボタン屋さん和学校の間を何度も往復して、ペソをかく子も出る始末、かわいそうだとは思いますが、私は決して妥協をしないことにしています」こうして生徒さんたちは卒業までにボタン選びのセンスを身につけていくそうです。

ふだんは何気なく見ている小さなボタンにも、さまざまな物語があることを感じさせられました。

以上

参考文献:

『ボタン事典』阿部和江編(株)アイリス 大隅浩監修(株)文園社 1999年刊

"The Button Book" by Diana Epstein, A Running Press Miniature Edition, Running Press, Philadelphia・London, 1996

『ボタンの話』(株)アイリス マーケティング部編(株)文園社 昭和61年刊

『うた日記』森鷗外著 岩波書店 1940年刊